

# 変革する社会のなかで 人としてのあり方を 追求する

デジタル技術が社会を変えている。1990年代半ばから急速にコミュニケーションツールが発達し、人と人をつなぐだけでなく、人とモノ、モノとモノを広範にネットワーク化するようになった。2010年代半ばからはCPUの演算速度や記憶媒体容量の向上がより加速し、社会はアナログからデジタルへさらに劇的に変革し始めた。仮想通貨、キャッシュレス化、オンライン市場、人間の認知能力を超えるセンサー、高度なAIを備えたロボットなど、科学技術が多方面で従来の常識を覆し、2030年の世界さえ予想がつかなくなってきた。

地球温暖化は一層進んでいるが、2050年ごろまでに温室効果ガスの排出を実質ゼロにして気温上昇を1.5度以内に抑えるという目標のハードルは非常に高い。そのほかにも、生物

多様性の減少、水資源の偏在、廃プラスチック問題など、環境をめぐる難題は山積している。さらには、少子高齢化、財政・社会保障の持続可能性、多様な労働者の働き方など、数多くの社会的課題が特に日本において深刻だ。

こういった状況に対するわれわれの解答が「Society 5.0」であるが、その橋頭堡となるのがスマートシティだろう。都市を構成する膨大なデータをデジタル化してプラットフォームに取り込みながら、最適なエネルギーマネジメントシステムや、サーキュラーエコノミーを可能にする資源リサイクルシステム、電動化・自動運転を前提としたモビリティシステムなどを組み込んだ、新たな都市のアーキテクチャーを構築していく必要がある。

デジタルトランスフォーメーションによって



三菱ケミカルホールディングス社長

おちひろし  
越智 仁

生じる生活の抜本的な変化にどう対応するかが、日本経済の成長と社会の発展を決定づけていくことは間違いない。そうしたなかで、われわれはどのように働き、暮らしていくか。一人ひとりがどのように創造性を発揮し、誇りと満足を獲得していくか。当然、リカレント教育を含めた教育改革も重要な課題になると考えている。

変革する社会に向かって、デジタル、バイオといった科学技術を用いてどのように対処していくか。そのなかで、人としてのあり方をどう確立していくか。多様な業種が集う経団連という場で深く考察しながら、社会が抱える諸課題へのソリューションたり得る提言を積極的に発信していきたい。